

滋賀ロケーションオフィス ニュース



第5号 平成16年(2004年)3月29日発行

発行：滋賀ロケーションオフィス
(社団法人びわこビジネスマンズビューロー内)
〒520-0044
滋賀県大津市京町四丁目1番1号
滋賀県商工労働会館 3階
TEL：077-511-5775
FAX：077-523-7555
E-mail：info@shiga-location.jp
URL：http://www.shiga-location.jp

サポーター登録者数 824人
(平成16年3月22日現在)

滋賀県が舞台の映画『火火』クランクイン迫る！

本県が舞台となる全国劇場公開映画『火火』が製作されることになりました。

この映画は、白血病の長男や多くの同じ病と闘う人々を救うため、母として、長男とともに骨髓バンク設立に奔走した本県信楽町の陶芸家神山清子さんをモデルにした映画で、美しい滋賀の風景や信楽焼を背景に、「いのち」の大切さを感動的に描こうとするものです。主役の神山清子さん役は、ドラマ『おしん』でその名を知られる女優の田中裕子さんが演じることとなっています。

また、この映画は一般劇場で公開されるエンターテインメント映画である一方、本県出身の元サッカー日本代表で主将をつとめた井原正巳さんが特別出演し、骨髓移植に欠かせないドナー登録を呼びかけるシーンが予定されるなど、公益的な意義をあわせ持つ映画です。

滋賀ロケーションオフィスでは、地域活性化に資するこの映画の実現に積極的に協力してきました。本年5月にクランクインが予定されていますが、地元の信楽町と連携し、撮影がスムーズに進むよう支援することとしています。

本県が舞台となる全国劇場公開映画は、平成6年に長浜市を中心に撮影された『男はつらいよ 拝啓車寅次郎様』以来、10年ぶりとなります。来年の春には、全国の劇場で公開が予定されています。



地元信楽町での打ち合わせにも熱が入ります



スタッフは神山さんの工房をはじめ、県内各地で連日ロケハンを行っています



スカパーフェクTV！京都チャンネル 『琵琶湖プロジェクト』続編企画がスタート

平成14年4月からこれまでに、12本が制作された滋賀県発の地域情報番組『琵琶湖プロジェクト』。スカパーフェクTV！の京都チャンネルのシリーズ企画として、このたび続編制作が決定しました。

郷愁を誘われる日本最大の湖「琵琶湖」。そこで育まれたひと、自然、歴史、文化遺産、さらには暮らしや食などを総合的に紹介する情報番組として、オフィスも積極的に協力していきます。

現在、番組プロデューサーの田原敏孝さんを中心として、企画の準備が進行しており、新シリーズ第1作目では長浜の曳山まつりを密着取材する予定です。曳山の舞台で演じられる子ども歌舞伎にスポットをあて、まつり当日だけでなく稽古風景から本番まで、子ども達の姿をカメラで追うことで、曳山まつりの魅力を探ります。また、番組レポーターが街を訪ね歩き、長浜の様々な表情を紹介する予定です。

この番組は、シリーズ企画として、今後も県内各地を訪ねて取材と撮影が行われる予定です。



“ロケ地の宝庫”滋賀をアピール 滋賀の魅力映像制作者にプロモート

全国のフィルムコミッション（※略して「FC」といいます。）が映像制作者に対し、プロモートを行う催しが、全国フィルムコミッション連絡協議会の主催で開催されました。



この催しには、北は北海道から南は沖縄まで全国26のFCが参加し、映像制作者に対し、各FCの活動方針やロケ地の特長などをプレゼンテーションしました。

近畿地方でトップバッターとなったオフィスは、映像制作者に滋賀の魅力を実感していただくため、映像を駆使しながら説明を行いました。

プレゼンテーション終了後の名刺交換会では、プレゼンを聞いた映像制作者から「滋賀県はイメージ的に遠いと思っていたが、京都から本当に近いことに驚いた。琵琶湖をはじめ魅力的なシーンが撮影できそうなので、作品に応じて、ぜひ滋賀を訪れたい。」などの感想をいただきました。

オフィスでは、さまざまな機会を通じて、プロモート活動を展開するとともに、映像制作者との人的つながりを活かし、ロケ撮影の誘致を行っていきたく考えています。



寒中ロケお疲れさまでした

NHK連続テレビ小説『てるてる家族』

さきごろ、1年間にわたる放送が終了したこのドラマ、登場人物たちが劇中で突然踊り歌い出すミュージカルスタイルの演出でも話題になりましたが、昨年11月に大津市の県立アイスアリーナにおいて、オフィスのサポーターも参加して大規模なロケが行われました。

これまでもNHK大阪のドラマ制作を支援してきたオフィスに対して、今回のロケでも支援依頼がありました。全国放送される国民的ドラマを通じて、滋賀県と県立アイスアリーナを広く紹介する絶好の機会と、オフィスは積極的な支援を行いました。



ドラマの中心となる岩田家の長女春子役の紺野まひるさんが、フィギアスケート選手として、全日本選手権や国体などに出場するシーンが撮影されました。このロケでは、岸谷五朗さんや浅野ゆう子さん、ヒロインの石原さとみさんら岩田家の人々が応援にかけつける設定で、サポーターの皆さんには観客役として出演していただきました。2日間にわたったロケ当日のアリーナ内の気温は、わずか6度。観客役はアリーナでじっとベンチに座っているため、長時間のロケ撮影は、防寒対策をほどこしていても底冷えがして、さながら冷蔵庫の中に居続けるような苛酷なものとなりました。

ロケ地となったこのアリーナ。ここは、あの市川染五郎さんがフジテレビで放映された人気ドラマ『プライド』出演のため、秘密特訓を重ねたスケートリンクです。あなたもドラマの主人公になったつもりで華麗に滑ってみませんか。詳しくは県立アイスアリーナまで。

<http://www.biwa.ne.jp/biwaice>

“時代劇のハリウッド” 彦根城

年末時代劇スペシャル

『太閤記～サルと呼ばれた男～』(関西テレビ)



織田信長に仕え、農民から太閤にまで駆け上がり、天下を取った豊臣秀吉の一代記である「太閤記」。これまでも何度となく、テレビでドラマ化されてきました。今回の主役はSMAPの草彅剛さん。知略に長け、戦上手なイメージが強い“秀吉”を、草彅さんは、やさしく人に愛され、戦においても人を殺すことを嫌い、兵糧攻めや奇襲などのアイディアを用いた“新しい秀吉像”として演じています。

年末にフジテレビ系列で放送されたこのドラマでも、お馴染みの滋賀の風景が登場します。

宮沢りえさん扮する信長の妹であるお市の方が、浅井長政に輿入れするシーン、石黒賢さん扮する黒田官兵衛が捕らえられている摂津有岡城攻めのシーンなどが彦根城で撮影されたほか、桶狭間の合戦や墨俣一夜城のシーンなどが竜王町や蒲生町で撮影されました。



今回のロケでも、オフィスはロケ地の事前調整から撮影当日まで、全面的な協力を行いました。県内でのロケも延べ1週間近くにわたり、彦根城ロケでは秋の行楽シーズンと重なったところに、草彅さんや藤木直人さん(信長役)、宮沢りえさん、国仲涼子さん(ねね役)など人気俳優が一同に集まったため、見物客で大混雑を極めることに。警備員による誘導で、なんとか無事に撮影を終えることができました。

撮影の合間、スタッフと“うどん”をすすめる草彅さんは、テレビで見るとおり気さくで、まさに今回の秀吉のイメージにピッタリでした。

出会いと別れ、恋の始まりは駅から

映画『透光の樹』(アルゴ・ピクチャーズ)

恋愛小説の名手である作家高樹のぶ子さん原作の小説『透光の樹』が、永島敏行さんと秋吉久美子さんの主演でこのほど映画化されることになり、新年早々、JR米原駅でロケが行われました。



この映画は、東京でテレビ番組の制作会社を経営する郷(永島さん)と、金沢の刀鍛冶の娘である千桐(秋吉さん)のはかない恋を描いた作品です。

JR米原駅では、千桐に会うため、金沢に向かう郷が列車を乗り換えるシーンが撮影され、サポーターの皆さんにも、足早に駅構内を急ぐ旅客役などでエキストラ出演していただきました。

撮影当日は、朝から雪が舞う寒い一日でした。ご協力いただいた米原町の皆さん、サポーターの皆さん、ありがとうございました。映画は本年12月、東宝系の劇場にて公開予定です。

“出演のサポーターの方から”

(前略)撮影では、主役の永島敏行さんに一番近い位置となり嬉しかったです。永島さんは、テレビで見えていたイメージとはずいぶん違いました。すごく背が高いのに顔がものすごく小さい、細身なのに肩幅はがっしりしていて、モデルさんのようなとても格好いい方でした。振る舞いも紳士的で、とても素敵で、これを機に大ファンになりました。

普段、米原駅を利用すると連絡通路が暗く寒い感じがりましたが、懐古シーンや雰囲気のある撮影にはなるほどびったりだと感じました。便利さも大切ですが、古いものを残すことで、それを受け入れてもらえるというのも嬉しいものです。 上松 珠美さん

“究極の純愛物語” 湖国ロケを実施

映画『嗤う伊右衛門』(東宝)

古典的名作「四谷怪談」を題材に、直木賞作家京極夏彦さんが独自の感性で書き上げた小説「嗤う伊右衛門」。映画化にあたっては、監督に世界的舞台演出家の蜷川幸雄さん、主演の民谷伊右衛門役にドラマ『白い巨塔』の唐沢寿明さん、民谷役役には映画『ラストサムライ』の小雪さん、ほか豪華キャストが揃い踏みしたこの作品。実は県内でもロケが行われました。

守山市にある美崎公園では、月が皎々と照らす夜更けに伊右衛門が舟から釣り糸を垂らすシーンが、そして、近江八幡市の八幡堀と新町通りでは、雪の舞う中を岩がひとり歩くシーンが撮影されました。

ロケが行われた美崎公園は湖岸道路沿いにある、森と川の水辺が調和した美しい公園です。園内から琵琶湖の方向に川を望むと、パレ物(※時代劇ではNGとなる人工物のこと)もなく、時代劇撮影にはピッタリの場所です。

しかし、午前3時半まで続いた夏場の撮影では、ヒルトとライトに寄ってくる大量の虫との戦いで、キャスト、スタッフともに苦難のロケとなりました。



劇場公開は既に終了していますが、興味のある方はビデオやDVDで、ぜひチェックしてみてください。

ピアニスト、いにしへの街道をゆく

『中山道 風の旅』(テレビ埼玉・群馬テレビ共同制作)

中山道は江戸時代に整備され、江戸日本橋から武蔵、上野、信濃、美濃の国々を通り、近江で東海道に合流して京都に至る69次135里(約540キロ)の街道です。

このシリーズは、ピアニストの村松健さんが旅人として、日本橋から京都をめざして街道を歩き、そこに暮らす人々とふれあい、鳥の声や風の音に耳を傾けます。

滋賀ロケーションオフィスでは、この番組の撮影企画を聞きつけ、「武佐宿編」、「守山宿編」、「草津・大津宿編」での撮影調整について積極的に支援しました。

「武佐宿編」では、八幡山からの市内風景を撮影の後、豊臣秀次公銅像、八幡堀、街道風景、さらには本陣跡などの撮



影が行われました。また、国道8号線沿いのレストランでは、本県特産の近江牛のPRを兼ねて、旅人との出会いのシーンが撮影されました。

「守山宿編」では、守山宿の面影を残す街道風景をはじめ、甲屋跡、東門院、郷土人形資料館の撮影が行われました。また、村松健さんと和ろうそく屋さんの出会いを通じて、守山宿の魅力を浮き彫りにしました。

「草津・大津宿編」では、草津宿本陣をはじめ瀬田の唐橋、義仲寺、三井寺などを撮影し、エンディングではびわ湖ホールホワイエを借りて、夕日の琵琶湖を背景にしたピアノ演奏も撮影されました。

さまざまな表情を見せる滋賀。オフィスでは、今後とも、こうした番組の誘致・支援を通じて、滋賀の魅力に光をあてていきます。

なお、この番組はびわ湖放送でも放送されています。

悠久の歴史と文化の舞台を訪ねて

『歴史街道～ロマンへの扉～』(ABCテレビ)

わずか2分のミニ番組ながら、美しい映像とアナウンサー道上洋三さんの暖かく心地よい語りで多くのファンを持つ番組『歴史街道～ロマンへの扉～』。

3月に2回にわたり、オフィスの支援のもと、この番組のロケ撮影が県内で行われました。

まず、ロケ地となったのは近江商人ゆかりの地、五個荘町と日野町。五個荘町では、舟板堀と白壁の土蔵が美しいたたずまいを残す五個荘商人の屋敷まちや当時をしのばせる商いと暮らしの面影などを、日野町では日野商人の歩みと豊富な文化遺産、そしてグリム冒険の森やブルームの丘など豊かな自然環境を生かしたメルヘンの世界を撮影しました。

また、信楽町においても、1260年の伝統を誇る信楽焼の歴史と今、そしてこれからの新しい取り組みのほか、貴重な発見しんがらみが相次ぐ紫香楽宮跡などの撮影が行われました。「五個荘町&日野町編」は既に3月中旬に放送されましたが、「信楽町編」は、ABCテレビで4月12日(月)から16日(金)まで午後6時54分より放送される予定です。



信楽町では、数少なくなったのぼり窯の窯元も取材しました

ロケ紹介

CMから考えよう環境問題

企業環境CM『すべてをグリーンに』

すでに3月19日からTVで放送されている富士通(株)の企業CMをご覧になりましたか?自然界に悪影響を与える鉛を使わない環境にやさしい「鉛フリーはんだ」を紹介するCMです。



CMオープニングの湖のシーンとエンディングの雨上がりの水辺を子供たちが傘を閉じて歩くシーンは、琵琶湖畔で撮影されました。全国の湖でロケ地を探していた制作会社に対して、オフィスからイメージにあう琵琶湖畔の風景を紹介し、本県でのロケが実現しました。

撮影は、まだ寒気の厳しい2月下旬、安曇川町と志賀町で行われました。

早朝から現地入りしたロケ隊は、湖面と空の様子がイメージにあう瞬間を根気と忍耐でただひたすら待ち続ける一方、雨上がりのシーンでは路面に水をまくなど小技も駆使しながら、無事イメージどおりの映像をおさめることができました。

オフィスでは、環境を考える映像作品の支援を通じて、「環境滋賀」のイメージアップに貢献したいと考えています。

このCMは、次のWEBサイトでもご覧になれます。

<http://ad.fujitsu.com/ad/eco/tvcf/tvcf.html>

映画づくりへの情熱をあと押し
自主製作映画の県内ロケも支援しています

滋賀県での映像制作を幅広く支援しているオフィスでは、自主製作映画の撮影に対しても支援を行っています。映画製作の次代をになう人材を支援することは、映画人口の裾野を広げて文化振興にもつながる一方、滋賀県での映画を含めた映像制作がプロ・アマを問わず盛んになることを願い、商業映画だけに限らず学生や若手映画人の映画づくりにも協力しています。

さて、このたび2本の自主製作映画のロケが県内各地で行われましたのでご紹介します。

◆映画『赤を視る』(仮題)◆

作風やプロ・アマを問わず自主製作映画の発表の場として、関係者の注目を集める“映画の異種格闘技戦”「シネトライブ」。年1回行われるこの映

画祭で監督賞を受賞した浅川周監督による短編映画『赤を視る』(仮題)が、このほど全編県内で撮影されました。主人公の少女が姉の死を通して、少しずつ「生きる」ということを意識するようになる過程を、白黒映像により静かなタッチで描く作品です。この作品では、近江八幡市内の中学校や草津市内の個人宅などをお借りしてロケを行いました。また、主人公の学校シーンや姉の葬式シーンでは、サポーターの皆さんにもエキストラとしてご協力いただきました。

◆映画『園園 YU-EN』◆

京都市立芸術大学の学生で構成するアートユニット「Antenna」が、関係者間で評価された前作『カミーユ』に続いて取り組む映画製作の第2弾です。

今までに無かった新しいタイプの時代劇映画として、県内では彦根城や甲

賀の里忍術村などでロケが行われました。写真は1月中旬に行われたロケ撮影でのひとコマです。森の中での祭礼シーンは、焚き火を囲んで村人達が踊り盛り上がるというもの。ロケ撮影は希望ヶ丘文化公園にある野外活動センターで行われました。厳寒の夜間ロケにもかかわらず、19名のサポーターの方がエキストラとして出演。自主製作映画ながら、本格的な衣装と小道具を使用しての撮影に、サポーターの皆さんにも映画づくりの現場を体感していただきました。



プレスツアー「湖国シネマ紀行」を開催しました

滋賀県は、映画のロケ地として、これまでから多くのロケ撮影がされてきました。オフィスでは、県やびわこビジターズビューローと共同で、ロケ地を観光地として紹介するため、時事通信社や小学館など全国の新聞・出版社25社を対象に、去る2月12日・13日の両日、「湖国シネマ紀行」と銘打ったロケ地訪問ツアーを実施しました。

今回のロケ地訪問ツアーでは、ホテルの会議室を借りて、事前に県内で撮影された映画などのシーンを上映した後、実際にその場所を訪ねる形式で行いました。

ツアーのオープニングは、映画『砂の器』で有名な米原駅です。この映画では、犯人の足跡をたどる刑事が、夜の米原駅で乗換電車を待つシーンが撮影されています。駅のホームは、今なお、旅情たっぷりに撮影当時の面影を残していました。その後、“時代劇のハリウッド”と言われている彦根城、ベネチア国際映画祭の監督賞受賞作品『西鶴一代女』の撮影が行われた天寧寺、映画『渋滞』に登場した多賀町の料亭かき楼、さらには映画『男はつらいよ 拝啓車寅次郎様』の長浜市黒壁周辺なども訪れ、観光とロケ地の視点で取材をしていただきました。

ツアーに参加した記者からは、「今までにない新しい切り口で、滋賀県の魅力を発見できた。滋賀の隠れた魅力を全国のロケ地ファンに伝えたい。」などの感想をいただきました。



今回参加の新聞・出版社は、発行エリアが全国にわたり、発行部数も全体で2,000万部以上となることから、今後、本県を訪れる観光客の増加が期待されます。

既に、一部の新聞・雑誌には「湖国シネマ紀行」と銘打った記事が掲載されています。

サポーター、びわ湖ホールのおペラに初出演

県立芸術劇場「びわ湖ホール」では毎年秋にプロデュースオペラを制作・上演しています。日本最高水準の力を結集して上演されるこのオペラは内外の評価も高く、公演を見ようとオペラ愛好家が全国から集まります。



昨年11月、日本初演の大作ヴェルディ作曲『シチリアの夕べの祈り』が上演されました。オフィスではびわ湖ホールとタイアップし、このオペラの助演者(※映画でいうエキストラのことです)として、5名のサポーターの方に出演していただきました。助演者といっても、衣装はイタリアで制作されたものを着用し、公演に先がけて約10日間の稽古やリハーサルをこなす本格的なものです。ライトを浴びて立つ舞台は客席1800席余りの本格的な4面舞台。サポーターの皆さんにとって映画やドラマのエキストラと違い、やり直しのきかない舞台公演はすごく緊張を伴いますが、やりがいのある貴重な体験(快感?)となったようです。

さて、びわ湖ホールでは今年もプロデュースオペラの助演者を募集しています。応募はオフィスあてメールかFAXまたは電話にて。5月7日(金)が応募締め切りです。どうぞふるってご応募下さい。

———2004年度 びわ湖ホール プロデュースオペラ———
ヴェルディ作曲『十字軍のロンバルディア人』(全4幕)
公演日: 2004年10月16日(土)・17日(日)
両日とも14時開演(13時15分開場)
会 場: 県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール

※演出家と調整中のため、性別・年齢・人数等は現在未定です。演出の都合により、ご応募いただいても出演いただけない場合があります。出演料はお支払いできませんのでご了承下さい。また、10月に必ず参加していただかなければならない約10日間の稽古等があります。

私たちは、滋賀ロケーションオフィスの活動を応援しています。

- 滋賀県信用保証協会
- 滋賀県興行協会
- 株式会社ゼンリン
- 琵琶湖汽船株式会社
- アインズ株式会社
- 宮川印刷株式会社
- 株式会社TMオフィス
- 株式会社ヒサダ昭栄堂

- 株式会社滋賀銀行
- 株式会社びわこ銀行
- 西日本電信電話株式会社
- 株式会社NTTネオメイトみやこ
- NTTオートリース株式会社
- 大津プリンスホテル
- ホテルニューサイチ

(敬称略・順不同)

おかげさまで、滋賀ロケーションオフィスもこの4月から3年目を迎えます。サポーター登録も遂に800人を超えましたが、登録メールは現在も日々寄せられ、まだまだ増える様子。スタッフ一同、厚く御礼申し上げます。

春からは、滋賀が舞台の映画製作に加えて、多くの映画の県内ロケが待機中です。サポーターの皆さんあつての滋賀ロケーションオフィス、どうか今後ともよろしく願いいたします。

編集
後記